

第9回新生匠瑳戦略会議 会議録

開催日時：平成23年9月29日（木）

午後7時00分～9時15分

開催場所：八日市場ドーム選手控室

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、越川八代枝
鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（11人／名簿順）

欠席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃

（団体推薦者）安藤建子、橋場永尚 （4人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ （渡辺委員長）

（省略）

3 議 事

[議長]

まずは報告です。9月18日に「里山・檀林ふおーらむ」を行いました。効果はあったと思います。ただ、いくつか気がついたことがあります。一つは、A委員からよく市民協働の話が出ますが、行政と一緒にコラボしようとしても、市民の側に地域で活動している人、主体的な契機がなければいくら行政が良い施策を打ち出してもダメなんですね。B委員やC委員の他、安久山で活動されている方、ふれあいパークの方、さらには青年会議所の方などは何かやりたくてウズウズしていましたよね。こういう人たちがいるので、今後のやり方次第で何かできるのではないかと思いました。

もう一つは、質問の中に何でも市へ、何でも戦略会議へという感じのものがあ
りました。つまり、戦略会議を一つの取次ぎ場所みたいな、フォーラムをそうい
う場ととらえていたのでしょう。これはある程度予測をしていました。というの
は、事前にホームページでタウンミーティングの会議録を読んでいたからです。
その様子から、おそらく行政への質問や不満が出てくるだろうと思っていました。
ただ、そういう発言があったので、後の流れが悪くなるかと思っていましたが、
後半に地域で実際に活動していて、やる気のある方の発言が出てきてくれたので
良かったです。

B委員いかがでしたか。

[B委員]

何でも戦略会議へというのは良くありませんが、地元の人が心配して発言して
くれるというのは、非常に期待もされているのではないかと感じました。

里山について知らなかった人もいましたし、せっかくいい自然が残っているの
だから、檀林、里山、自然、それから「飯高地域まるごと体験博物館」のような
提案も全部含めて、何かできないかと思いました。

[議長]

C委員いかがでしたか。

[C委員]

私も千葉大学で行った地域資源を発掘するための調査に参加しました。この地
域にどれだけの資源が眠っているかということで、何回か集まって実施しました。

私が戦略会議でお世話になるようになってから、たまたま地元の集まりに行っ
たのですが、飯高としてどうするかという意見をちゃんと持たないといけないと
いうことを何度も言ってきたのに、フォーラムでは「何でも行政がしてくれれば
いい」という話が出てきてしまいました。利用方法を決めてから廃校にすれば良
い、という考え方です。その前に、廃校になったときに自分たちはどうしたいの
かという意見は全く出てきません。

一応、「飯高小学校を何とかする会」というものを作るというところまではいっ
ているのですが、やってくれる人が出てこないのです。

[議長]

仮に、戦略会議で提言したものが実際に施策化されたとしますよね。しかし、
行政がどんなに良い施策を行ったとしても、そこに市民の主体的契機がなければ
絶対に失敗します。当然、失敗したら行政が責任を問われます。もちろん、主体

的契機を作り出すあるいは作り出す仕組みを仕掛けるのは、この戦略会議の仕事の一つかもしれませんが。まあ、そういう意味でもフォーラムを開催してみました。

[C委員]

現在、飯高で積極的に活動しているのは一部の人で、彼らが飯高檀林コンサートを引っ張っている状態です。なので、そこに話を持っていかないと厳しいかもしれません。若い人の中にも良い素材を持っている人はいます。

[議長]

一つ気になったのは、D委員と一緒に来ていた青年会議所の方ですが、何かやりたくてウズウズしている感じがしましたよね。

[D委員]

彼はペット屋で生物について詳しく、B委員に会いたいということで来てくれました。

[議長]

青年会議所の方は、まちづくりに参加したいという感じがしましたよね。JT跡地の利用について、何か積極的に参加してみてもどうですか。商工会と青年会議所は、JT跡地の利用に欠かせない存在だと思います。

[D委員]

まちづくり駅前市場の企画などを行っている「まちづくり元気隊」には何人か参加していきまして、戦略会議と両方で頑張っているのですが、商工会さんの方の考え方もあるのでなかなか連携というところで難しい面はあります。

[E委員]

フォーラムの参加者の中に知り合いがいて、後で感想を聞いてみたところ、地元にはない良いアイデアが出ていたので、大変有意義な時間だったと言っていました。

[C委員]

市役所の駐車場で朝市をやっていますよね。始まった当初は場所がなかったということもあり、市役所の駐車場で始まったのですが、その朝市をJT跡地でやるのはどうでしょうか。

[事務局]

現在のまちづくり駅前市場ができる過程の中で、朝市組合にも連絡をとっていきまして、毎週というわけにはいきませんが、一応やれるという話にはなっていま

した。ただ、市役所駐車場での開催にはすでに固定客もついていて、全面的にすぐ移動というわけにはいかないというのが現状のようです。

[議長]

いま、三つの跡地を個別に考えていますが、この三つがどこかで繋がらないでしょうか。

[事務局]

駅周辺に自転車を配置して、その周辺を自転車で散策できるような、そういう事業にもコンタクトをとっているのですが、募集なので対象になるかどうかという問題もあります。考え方として、一つにはJ T跡地を軸にサイクリング環境を整備して周遊してもらうこと。もう一つには、商工会の考え方になりますが、例えば、買い物弱者に対して出前をするためのターミナル的な場所にするなど、そういう検討を進めている段階です。

[議長]

フォーラムで、もう一つ感じたことは、この戦略会議に対する過大評価というか、まるで戦略会議が市を動かしているように思っているのかと感ずるところもあったのですが、市民はこの戦略会議をどう思っているのでしょうか。政府の国家戦略室みたいなイメージに思っている人が多いのではないかと感じました。ただ、戦略会議は市の規則でできていて、市長部局でどうにでもなるような組織に過ぎないのですがね。

[事務局]

部分的にはそういうふうに感じている人もいるかもしれません。やはり跡地利用については関心を持っている人が多いと思います。市長も議会で「跡地利用については戦略会議で検討をお願いしている」と答弁していますので、その部分がどんどん膨らんできている気はしています。

[議長]

そうであるならば、戦略会議に権限を持たせて欲しいし、逆に、持たされると困るという人もいると思います。

でも、ひょっとしたら今回のフォーラムのように、戦略会議は外に出て行った方がいいのかもしれないね。いろいろ発見することが多くありました。

さて、議事については順番を入れ替えて、まず（４）から入ります。

(4) 総合計画中期基本計画（素案）に対する意見について

[議長]

皆さんからいただいた意見は事前に配布されていますので、内容についてはすでに読まれていると思います。いろいろと意見が出ているわけですが、そこで事務局に質問です。なぜ素案を作る段階でこれらの意見を吸い上げられなかったのでしょうか。

[事務局]

同じような指摘をF委員からもいただいています。当初、戦略会議をスタートする段階で主要4課題の検討をお願いしていました。

この総合計画中期基本計画については、市民意識調査や団体懇談会など、市民から意見を伺う機会を設けています。庁内にも策定委員会という組織があり、その下で専門部会という実務者の会議の中で素案を作るという過程を経てきました。

そこで、戦略会議自体がまちづくりについての検討を行う場ということもあり、本来なら事前に意見をお聞きして素案に反映させたいと考えていたのですが、スケジュールの関係もありまして、素案ができた段階で総体的な意見を伺う場になってしまいました。その点については反省しております。

今回は、議会にもご説明して素案の段階まで積み上がってきていますので、大変恐縮ですが、素案全体を見ていただいた中での意見として伺い、組織の中で検討させていただきたいと思いますので、ご了承ください。

[議長]

この資料の中に私の意見は載せていませんが、皆さんの意見を見て、もう一度素案を見直したのですが、私の意見としては、これは作り直しですね。大きな枠組みとして、この時期に出すものとして、東日本大震災のにおいが全くしません。それから、人口減少への対応としてダウンサイジングしたまちづくりへの展望など、それはまた別の部署で考えるのかもしれませんが、そういうものが見えませんでした。

また、どこの市町村も同じような計画を作っていて、この計画を見たときに匝瑳市という感じはしませんでした。市町村がこういう計画を作成するときは、国の政策に沿ったかたちでやってきましたよね。学校のゆとり教育で、教科書もカラーが多くなっていきましたが、同時に、こういう総合計画も写真を使ったりカラーにしたりすることで中身がなくなっていきました。

ただ、全国的には個性を生かした計画を作っているところもあります。匝瑳市ももっと個性を出すべきだと思いますし、そうするためには現状をもっと分析しておかないといけないのだと思います。

[事務局]

委員長のご指摘のとおり、総合計画が時代に合っていないというところはありません。以前は地方自治法の中で基本構想及び基本計画を作成することが義務付けられていましたが、地方自治法が改正されて今年から義務付けが廃止になりました。そういう背景も当然あると思いますが、各自治体が国の施策をもっとかみ砕いて、個性あるものを作る時代になってきています。私も作成に携わってジレンマがあったのは、合併のときに12年というスパンで基本構想を作っていますが、その理念及び骨格は基本的には変更できないのです。基本計画では地域の色を出しにくいので、実施計画の段階でより個性を出せるような計画にしていかなければと思っています。

[議長]

素案を出す段階で議会にはかけるのですか。

[事務局]

議会には報告になりますので、議決は必要ありません。

[議長]

議会で意見は出ましたか。

[事務局]

素案の段階で議会の全員協議会で説明しまして、先ほどもご指摘がありました。人口減少への記載が足りないなどのご意見をいただいています。現在、この素案から修正をかけていて、12月議会で中期基本計画（案）の段階でご意見をいただき、翌年1月の総合開発審議会で諮問・答申という手続きを経て、市長が決定いたします。

[議長]

その議会で出た人口減少への意見は、人口減少をどうにかして止めなくてはならないという意見ですか。

[事務局]

いえ、先ほど委員長が言われたとおり、これからは人口減少を前提とした行政でなければならないという意見の方が強かったですね。前期基本計画を作るときには、初めて人口推計を減少で推計したこともあり、積極的に人口を増やす政策

を出していかなければ計画としておかしいだろうという意見が出ました。

しかし、今回の中期基本計画では、国全体の人口の減少が見込まれる中で、人口減少それ自体が全て悪いというわけではないという意見もあったと思います。

[議長]

悪いことではないのですが、人口の減少と高齢化が二つ重なっているのです、生産する年齢層が薄くなっていくという点では、どうしても不安にはなりますよね。

G委員いかがですか。

[G委員]

商工業などで突起した部分があるところは、それを前面に出して個性を出していますよね。匝瑳市ではそういう部分がないので難しいのではないかという感じはしています。

[事務局]

匝瑳市も地方の一つですが、もっと過疎が進んでいる地方では、特色ある施策を積極的にやっていますよね。しかし、現実的には人口減少は止まっています。同じようなことを匝瑳市でやろうとすると、若干ハードルが高かったりします。これらを変えるきっかけを作っていないと、ただ計画だけ作っても計画倒れになってしまうということはあると思います。

[議長]

例えば、里山・檀林がある飯高地区をゾーンとしてとらえ、C委員やB委員、地元で活動している人たちが参加して、自主的に管理していくことになりました。そこで、市が何らかのかたちでコラボできるとしたら、おそらく総合計画の大枠を変えていくような部分が出てくると思います。

[事務局]

中期基本計画でも市民協働や地域力という記載はありますが、ただ、基本計画の性質上、一定の制限があり、細かい部分までは触れられないので、実施計画や事業計画の中で現実的に反映させていくという努力が必要です。

[議長]

最近の市町村の総合計画でいくと、市民協働の部分は分量が多いですよ。でも、実際にはどれくらいできているのでしょうか。鎌倉市は良い事例としていつも取り上げられていますよね。

[事務局]

市民協働をやっていくには、行政側としても相当の労力が必要で、箱物を造っ

ている方がよっぽど楽なのです。その点に、どれだけ人を割いていけるかだと思います。

[議長]

やはり、行政も市民も意識を変えていかないと無理ですよ。市民協働が本当にうまくいけば、本当の意味での市民参加や住民自治になると思うんですよ。飯高小学校の跡地を利用するとして、設置者は市になると思いますが、そこを市民団体が自主的に管理していくことになれば、本当の意味での公設民営を作れるような気がします。ただし、例えばC委員やB委員が中心になってやったとしても、実際の管理はなかなか難しいのですが、そこまで目指すべきだと思います。

[G委員]

私もそう思います。管理・運営の面で従来の枠組みをはずして考える必要はあると思いますが、実際にできるのでしょうか。

[事務局]

管理の方法は、指定管理者制度などいろいろあると思います。施設整備は市が行い、管理・運営については委託することもできます。現在は、行革の流れから考えてもそういう方向ですよ。ただ、そうするにしても、受け皿の問題が出てきますので、受け皿を作るというところに相当のエネルギーが必要で、今の市民の方の意識でいえば、まだ少数派だと思います。飯高の中で一つにまとまり、積極的に受けていこうということで、市に対しても自分たちの意見や考えをいろいろ提案できるような状態にしていかないと、実際の管理は難しいと思います。

[G委員]

資料の中に、農地付き住宅の提案がありますが、今朝NHKで多摩ニュータウンの集合住宅を建て替えたミニ農園付きの物件が放映されていて、けっこう若い人の入居が見込めるという話をしていました。

例えば、飯高でこういう取り組みをしてみてもいいのではないかと思います。その中で小学校の再利用も考えられるでしょうが、ただ、山を削ってまでの事業を匝瑳市で本当にやれるかという、少し難しい気がします。

[議長]

皆さんから中期基本計画の意見を出していただきましたが、これは反映されるかどうかはわからないということですよ。

[事務局]

意見として伺い、反映させるよう検討させていただきます。その結果について

は、皆さんにご報告いたします。

[B委員]

この計画で実際にやっていくとき、それぞれ目標が書いてありますが、市では各課でそれぞれ指標を立ててやっていくわけですね。ただ、それらは一つの課だけではなく、複数課にまたがって関連してくる場合もありますよね。

[事務局]

確かに関連してくる部分があります。前期基本計画の反省の中で、主管課が明確でないということがありましたので、中期基本計画ではあえて課名を入れています。取組主体を明確にすると、それが単独課の場合もありますし、複数課の場合も出てきます。

[B委員]

課に下ろすのではなく、例えば、檀林周辺の活性化について、産業振興課や教育委員会などの権限を与えたプロジェクトチームを作って、そこで総合計画に沿った事業を展開していければ、市も盛り上がるような気がします。

[事務局]

実施の手法として、関連施策に対してはプロジェクトチームを作ることも必要だと思います。

[議長]

今のB委員の発言は重要で、どこの自治体でもやっぱり縦割りなんですよね。本当の意味での総合化というのがなかなかできなくて、今言われたプロジェクト化に関して言えば、何のためにプロジェクト化するのか、何を問題にしているのかというところを深く議論しないと出てこない問題です。匝瑳市だけに限らず全国的な問題ですが、行政の縦割りという考えはやはり安易だと思います。

(1) J T跡地、旧小学校施設等の利活用について

[議長]

続いてJ T跡地の関係ですが、先日のフォーラムのときに青年会議所の方の印象が強く残りました。しかし、私自身、青年会議所についてあまり詳しくないのですが、構成メンバーとか、青年会議所について少し紹介していただけませんか。

[D委員]

入会の要件は、人のため町のためにという意識のある20～40歳の人で、住所や

職業は関係ありません。

[議長]

青年会議所の中で、まちづくりとかの話は出ますか。

[D委員]

そうですね。ただ、商売をやっている人が多く、集まりも夜中とかで手弁当でやっている組織なので、なかなか大掛かりなことはできないのですが、時々イベントを開催したり、メンバー間のスキルアップのために講習会などをやっています。

[議長]

メンバーは旧八日市場の人が多いのですか。

[D委員]

今は街中で商売をやっている人が減ってきていて、むしろ旧光町のメンバーがけっこう多いです。

[H委員]

うちの息子が青年会議所に入っていて、来年は理事長をやらせていただくのですが、先日のフォーラムに参加した感想を聞いたら、いろいろな会議をまとめて、もっと大きなものにできないかということを書いていました。書類ばかり作って会議をやるのもいいですが、それだけではなく実際に動き出さないと前には進まないのではないかと思います。

[G委員]

今の若い人たちはまじめだし、私は良いと思いますけどね。

[議長]

まちづくり元気隊は、特別に組織したのですか。

[事務局]

公募で募集しました。

[議長]

元気隊に入っている人たちは、どういう構成メンバーなのですか。

[事務局]

隊長は商工会青年部の部長さんで、市議会議員さんも入っています。

[議長]

現在行っている J T 跡地の暫定利用について、 I 委員はどう思いますか。

[I 委員]

空いているから短期間で使っていくというのもいいですが、それが本格利用に繋がるものではないと思うんですよ。それならば、本来の目的とは異なるが、常識にとらわれない利用方法を2～3年間やってみるということの方が良いと思います。

例えば、高校生に全てを任せて、そこで商売をさせます。法律で禁止されていることを除いて、何でもやっていいということにします。利益が出れば、高校生で分配して、部活の費用に使うなどメリットも出してあげます。大人はなるべく関与せず、自分たちでお金を稼ぐことができるような商売をやらせてみたら面白いと思います。

[議長]

高校生に商売をさせるという考え方と、それを実現させる機関はどこにやってもらいますか。

[I 委員]

実行委員会などを組織していくのが良いのではないかと思います。一般的に、時間が余っていてお金がないという人は増えてきていますので、自分の力で稼ぎたいという潜在的な需要があるのではないかと思います。高校生に限らずフリーターの人にもオープンにするなど、もしかしたらそこから奇抜なアイデアが出てくるかもしれません。

[議長]

私もそういうところからサブカルチャーが生まれるのではないかと考えています。ただ、匝瑳市でやろうとすると、不良のたまり場になるなどの規制が最初にかかってくるのではないかと思います。

[J 委員]

不良のたまり場と言えば、駅前を我が物顔で使っている高校生や夜になっても帰らない女子がいるとのことで、トイレを汚したり爆竹に火をつけたりしているそうです。

[K 委員]

高校生なのですか。若い感じがしたので、中学生かと思いました。

[J 委員]

警察も悪いことをしなければ何もできないので、毎日出動はしませんし、駅前の交番には誰もいません。

[K委員]

不良というよりは、家にいても誰もいないし、やることもないので集まっているのかと思いました。

[J委員]

そういう人たちこそ、働かせられればいいのではないのでしょうか。

[B委員]

そういう人たちは働きたくないのです。高校に通う子どもたちが駅前に集まり、そこへ中学生が来ている状態です。

[J委員]

おじさんたちが注意しても言うことを聞かないし、警察も来ません。

[B委員]

基本的に警察はいませんので、建物はあっても助けてはくれません。

[J委員]

警察がいてくれればいいのですが。

[B委員]

退職した人を配置するような話がありましたけどね。

[議長]

こういう子どもたちは取り締まればいなくなるものですか。

[B委員]

やることはありませんので、また別の場所へ移動するでしょうね。

[I委員]

東京にキッザニアというところがありますよね。これも本来はダメと言われていたような日本の子ども教育でしたが、だんだん評価を得てきています。匝瑳市は高校が2つもあるので、高校生をもっと有効に活用してもいいのではないかとと思いました。

[議長]

今の中学生や高校生について理解できないようなところはたくさんあるのですが、歌手で「浜崎あゆみ」っていますよね。彼女の歌詞を私が見てもあまりわかりません。だけど、若い人たちの話を聞くと、ちゃんと感情移入ができています。

先ほどの話で、駅前に子どもたちが集まるというのはどういうことなのでしょうか。

[L委員]

集まって不良をやっている自分が格好いいとか、そんなに深い意味はないと思いますけどね。

[I委員]

そういうものは、潜在的にみんな持っていると思います。

[議長]

ただ、そうやって集まっている子どもたちの背景に、ただ格好いいからではなくて、家庭などの社会的な背景が潜んでいるような感じがしますよね。

G委員いかがですか。

[G委員]

格好のつけ方が私たちの時代と比べて違ってきています。無理に頭ごなしに抑える必要もないと思いますが、子どもよりもむしろ親の影響があるのではないのでしょうか。

[C委員]

私もそう思います。親がしっかりしていないから子どもに影響するのだと思います。

[G委員]

私の年代くらいまでは、竹刀でよくたたかれていたものです。それが親になるとどうして自分の子どもをたたけないのでしょうか。

[C委員]

今は親がすごいですよね。何かあればすぐ教育委員会に電話したり、そこら中で大騒ぎをしてしまうようです。

[議長]

でも、そういう子どもたちも、一人ひとり話してみるとけっこう素直ですよ。大学では、金髪にピアスの学生がいっぱいいますが、個々に話を聞いてみるとみんなまじめなんですよ。

I委員の提案のように、そういう子どもたちを何かしら導いていけたら、新たなエネルギーが生まれるかもしれません。

E委員いかがですか。

[E委員]

J T跡地については前から言っていますが、駅を中心に南側と北側のエリアを整備できればと考えています。銚子連絡道路がいずれ駅の南側を通ると思います

が、駅の南側整備も結局中途半端なままです。

そこで奇抜な案ですが、線路をまたぐような橋を造り、人も車も南北を自由に横断できるようにします。南側の交通が増えれば、周辺に駐車場や自転車置き場もできます。そして、今あるタクシーの待機所を全て日本庭園にして、待機所はJ T跡地へ移動してもらいます。やはり駅を中心としたにぎわいの創出が大事だと思います。

[G委員]

ところで、駅南側の都市計画はどうなっていますか。

[事務局]

先ほどE委員が言われたとおり、駅の南側はずっと懸案だった場所で、宅地の造成も含めて開発についての議論は議会でもありました。しかし、あのエリアは農業振興地域というのがネックになっていまして、大根用水までは白地（農用地区域から除外されている農地）なのですが、その先が農業振興地域から除外できません。これは農林水産省が農業振興地域を守っていく姿勢ですから、なかなか難しいと思います。

もう一つの問題は、JRの南口に改札が開いていないということです。今はエレベーターを設置して自由通路で行き来していますが、若干不便な面はあると思います。そこで、JRに要望をすると「必要に応じて」という返答で、結局利用者が見込めるかどうかのポイントになってきます。当然、人口減少が始まっている中で、乗降客も減っています。市は「南口に改札ができれば利用者は増えるだろう」という考えで、JRは「南側からの利用が増えれば改札を開けます」という考えなので、いつまでたっても前へ進みません。

[G委員]

南側も早くしないと虫食い状態になってしまいます。

例えば、橋はお金がかかるので、車が通れるような地下通路を造って、北と南を往来できるようにするのはどうでしょうか。今のままだと非常に不自由ですね。

[事務局]

以前、JRに話をしたこともあります。いま跨線橋（線路を跨ぐように設けられた橋）の話が出ましたが、跨線橋だと国道までの距離が問題で、旭市のものを見ていただくとわかりますが、相当の距離が必要になります。JRにとっては踏み切り一つ拡幅するにも億単位の話で、もしそれをやるとすれば、他の踏み切

りを一つ閉鎖しなさいという議論になります。JRにしてみれば、安全性を一番重視していますので、踏み切りは無ければより無いほうが良いという考え方なのです。

また、地下通路の場合は、地下に入っていくスペースの問題があります。跨線橋も地下通路も、駅周辺のロケーションなどを考えると非現実的だと思います。

[議長]

わからないのは、駅前を開発して何が変わるのでしょうか。私は八日市場駅のもつ意味合いとしては、そんなに大きなものを感じません。これが都市部のターミナル駅や観光地であれば違ってくると思いますが、八日市場駅周辺を開発することで、どれだけ人が流れるようになるのでしょうか。

[事務局]

昔は駅へ路線バスが通っていたので、電車とバスという人の流れがありました。今は循環バスしかなく、駅前が従来のように人の流れる起点になっていないのです。最近の八日市場駅の乗車人員は1日平均2,000人くらいで、高校生などの通学が多いです。

[議長]

当然、通学は多いですね。後は通勤ですが、通勤は八日市場駅から出て行く人ですね。朝、八日市場駅を降りて日中働き、夜帰る人は相当少ないはず。つまり、駅前を開発するということは、そういう人たちをターゲットにするわけですね。人の流れなどを考えた上で計画しないと、一時間に一本あるかないかの電車、地域住民がみんな車を使う状況で、駅前をどんなに開発しても無駄だと思いますがいかがでしょうか。

[G委員]

確かに駅周辺の開発については魅力が薄い。ですから、やっぱり私は銀行などに1億2,000万円とまではいかななくても、売却してはどうかと思っています。そして、それにかかっている財力を他に回した方が良いと思います。

[議長]

八日市場駅から人が流れてこないというのはある程度仕方ありませんが、何とかして商店街の活性化ができればと思うんです。もし商店街が活性化していれば、人も集まるし、近隣からも買い物に来ると思います。そうなれば、JT跡地の利用方法は、あつという間に出てくるのではないのでしょうか。

あまり人が集まらないのに、人を集めるようなイベントをやっているから苦勞

しているのであって、元々商店街に人が集まるような雰囲気があれば、J T跡地の利用についてはそんなに難しい問題ではない気がしています。J T跡地と商店街はリンクさせていった方が良くと思います。ただ、ああいう状態になってしまった商店街を元に戻すというのは並大抵のことではありません。

[I 委員]

F 委員はこういう事例をたくさん知っていると思いますが、商売の基本は競争相手よりも長い時間営業することです。

例えば、商店街では営業時間に制約がある場合があります。そういう規制を緩和して、24時間営業を可能にすることができれば、活性化の第一歩にはなりません。

[議長]

シャッター通りになってしまったところが、商店街の近代化と銘打ってやることは、店をきれいにするか駐車場を整備するかのどちらかですよね。それだけでは絶対勝てません。

[G 委員]

私がかかりするのは、大手スーパーが大変繁盛していることです。

[J 委員]

私は毎日通っています。

[C 委員]

安いというよりは、品数が豊富なので便利ではありますよね。

[G 委員]

大手スーパーは安い、ふれあいパークは新鮮でおいしい、ではこれを商店街に望めるのかというと、難しいですよ。

[J 委員]

今の商店街に必要なことは、電話一つで配達してくれるサービスです。買い物難民である高齢者は、大手スーパーには行けませんので、多少高くても需要はあると思います。

[G 委員]

山間部ではトラックで販売する移動スーパーのようなものを行っていますよね。

[C 委員]

何年もしないうちに飯高はそうなると思います。農村部では車を利用できなければどこへも行けません。

[G委員]

商店街の方も、同じ青果店同士であれば順番で各地区を回るなど、それなりに工夫はできると思います。

[議長]

大手スーパーと商店街の魚や野菜などを比べると、大手スーパーの方が新鮮味が高いということが多いですね。回転率もありますが、大手スーパーは産直というか、契約栽培で畑一つを買ったり、船で水揚げされる魚を全て買ったりしているのので、これは普通の商店街ではできません。

また、ワンストップショッピングというか、消費者は一ヶ所で買ったがるわけです。いろいろな商品が置いてあると、そこにある多くの商品の比較情報を手に入れられるのです。そういうことがあるので、大手スーパーから客を取り戻すというのは、よほど個性を持たせないと難しい気がします。

前に落花煎餅や初夢漬けの話をしてしましたが、やはり個性を持たせればお客は来るんですよ。

[L委員]

先日、施設の患者さんと話をしていたのですが、在宅で外に出られない人は、買い物に行ってたまたま欲しいものがなかった場合、その日に使ったタクシー券などの交通費が無駄になってしまうわけです。何かあるかわからないから買いに行けない、ただ見に行くだけだったら行かない、というふうに考えているようで、それならば宅配サービスを利用する方が良いみたいです。

[E委員]

いま7割のお客が大手スーパーに行っているのので、確かに存在感は大きいですよ。

[議長]

都市部の話になるので単純には比較できませんが、私の勤務している近所に砂町銀座という東京で3本の指に入るくらいの商店街があります。2～3年前に大手ショッピングセンターができて、最初は危機意識を持っていました。でも、商店街で売っているお肉や惣菜っておいしいですよ。なので、結果的には客があまり減りませんでした。

逆にショッピングセンターに来て、ついでに商店街にも買いにくるような、そういう人の流れができました。そういう努力を商店街の人はやらなければならないのだと思います。

[G委員]

E委員は街中の人ですよね。商店街の人は現状をどのように考えているのでしょうか。

[E委員]

生鮮関係はほとんどお店がありません。残ったところは、あまり日常の生活とは関係がなくなり、商店という感じがしなくなっていましたよね。

[I委員]

商店の強みは、店舗の減価償却がないところです。たとえ大手スーパーと同じ値段にしたとしても、純利益はもっと残るはずです。詳細はわかりませんが、大手スーパーでは賞味期限まで3日間あったとしても、物によっては目標から値段を下げてでも売ろうとするので、あまり古い物がないわけです。

[議長]

ただ、商品が売れる理由は値段だけではないですよ。スーパーでは、店員と話すことなんてほとんどありません。商店の場合は対面販売になるわけですが、それが良いか悪いかは別にして、都会だとそういう関係も薄いので、商店街に行って話すことが好きな人もいます。田舎だと逆に面倒なのでスーパーに行こうということになるのかもしれませんが、店の違いを認識して、もうちょっと個性を出した方がいいと思います。価格だけでは絶対に負けてしまいます。

もう一つは自動販売機ですが、決して安くはないのに良く売れますよね。しかも人と機械の関係なので、やりとりは無機質です。それとは違った商売のやり方で特徴を出さないと難しいのではないのでしょうか。

[J委員]

匝瑳市になくてちょっと不便だと思うのは、喫茶店があまりないことです。お母さんたちが、少し座ってお話したいときに近くにありませんので、空き店舗を活用して喫茶店をやってみたらどうでしょうか。

[G委員]

しかし、人通りが一番多い駅前の喫茶店がなくなっている現状を考えると難しいのではないのでしょうか。

[C委員]

ファミレスには皆さん良く行きますよね。

[G委員]

肉や魚、サラダやデザートまで一通りそろっているので、入りやすいですよ。

[議長]

ファミレスというのは、外食産業として画期的な意味を持ったのだと思います。かつては、日本で外に食事へ出かけるとしたら、ビジネスの場あるいは家庭での晴れの日（七五三など）で、そば屋さんや寿司屋さんに行くというのが普通でした。

ファミレスができてからは、メニューは洋食中心で家族で楽しめるような明るい店舗が多くなりましたよね。チェーン店なので、全国どこに行っても何がどのくらいの価格で出てくるかというのを知っているため、みんな「じゃあ、ファミレスでも入ろうか」と安心して入れるわけです。そういう店舗を全国に展開していったというのは、ファミレスの持っている最大の効果です。

これに対抗して、旧商店街の店舗が国道沿いに出店すると、ファミレスなどの真似をしていますが、真似するのはダメなんですよ。

お母さん方が子どもたちを連れて良くファミレスへ行かれると思いますが、小さいときからああいうハンバーグばかり食べるわけですよ。これは良いことなんでしょうか。

[B委員]

良くないですよ。家庭で家族そろって食事をするというのが日本の文化ですから。

[C委員]

匝瑳市は、子どもたちより高齢者の客層の方が多いです。何か会合があった帰りに、だいたいファミレスへ寄っていきますよね。

[議長]

かつてはコンビニの前に若者が座り込んでいるイメージがありましたが、最近では高齢者がよくコンビニにいます。コンビニではけっこう小分けしたものを売っていますよね。これで買い物層が実際に変わってきているので、企業はこういう努力を実際にやってきているわけです。同様に、商店街の人もやらなければなりません。

[C委員]

私もコンビニにはけっこう行きますが、お弁当を買っていく高齢者をよく見かけるようになりました。

[議長]

J T跡地については、子どもたちから生まれるサブカルチャーのようなものを

重視しながら、でも基本は商店街とセットで考えるべきだと思います。駅ではなく、ポイントは商店街だと思います。商店街の人にはぜひ頑張ってほしいと思います。

さて、J T跡地の話はこのくらいにして、その他に旧米倉分校の活用について I 委員から、市民病院の関係で L 委員から提案があります。

まず I 委員、紹介していただけますか。

[I 委員]

以前、現地を視察させていただいてから考えていましたが、やはり難しいなあというのが正直なところです。例えば、1 があって 2 に進むのはいいのですが、0 から 1 を考え出すのは非常に難しいことです。

4 つの施設を見て感じたことは、財政の苦しい自治体は先行投資でお金を使っていくやり方には慎重であるべきで、外からお金をとることを優先して考えるべきだと思います。また、そこから新しいアイデアが生まれるのだと思います。

そこで、今回の提案である植木大学(仮称)について説明させていただきます。

匝瑳市は全国でも有数の植木の町で、とりわけイヌマキは全国一と言っても過言ではありません。イヌマキはこの地方では昔から垣根として好まれて使われ、また庭木の植木として日本的庭園のシンボルとして使われてきています。近年は住生活の洋風化に伴い、また最近では景気の長期的低迷による維持管理費の面から人気は下落しています。

しかし、一方では中国の経済急成長でこのイヌマキに対する人気は急上昇し、輸出により再び光がさしてきています。しかし、課題も多く永遠に続く保証はどこにもなく、この産業が将来的に安泰である保証はありません。

最近はまだ九州から拡大したとされるケブカトラカミキリという害虫の被害で、銘木さえも枯れる被害が拡大しており、決定的な対策はいまだ見出されていません。

植木産業は長期的にみたら、今のままでは先行きが暗いということです。アバウトで商売をしているものを、一度全て整理して、ソフト面でのビジネスに移行できないかという提案です。

大口の輸出先である中国を中心にして、海外からの植木マイスターを育成する本格的学問機関の新設は、この地の植木産業の安泰につながる有効手段であると考えます。

基本的なスタンスとして、学校で学ぶ最も有効な方法は、高い授業料で質の高

い内容を学ぶことと、将来リーダーシップをとってその業界を引っ張るような人材を育てることです。私の経験からすると、授業料が安いということは、知識や技術の習得には向かないだろうと考えています。

学校は、全寮制で2年間とし、さらに研究課程を1年設け、大学と呼んでも一般の大学ではなく、大学の3～4年の専門課程を持つカレッジまたは専門学校とします。

提携先としては、農業およびこの分野で実績のある大学、例えば千葉大学園芸学部や東金にある県立の農業大学校などで、情報や技術の提携を行います。

教える内容は、日本語や日本の習慣と文化、また、植木の剪定や害虫病気対策などの実務論、その他に気候、日本の庭園文化、庭づくり理論などが良いのではないかと思います。

募集人員は20人。18歳以上で海外からの留学生を主体とします。

授業は、最初の6ヶ月は日本語と文化・習慣教育で、その後の授業は日本語で行い、一部英語を含みます。

授業料は高く設定し、一年分を前納させることで中途退学を防ぎ、本気で学ぶ人を集めます。

講師陣は、植木の有資格者、現役職人、大学の先生、その他認定の有識者で構成します。

施設は、2教室、自習室、実験室、食堂サロン、実験農場などで、付帯施設は、寮、共同炊事場、浴室、トイレ、洗濯場というところなので、旧米倉分校の施設で十分だと思います。初年度は全員入寮で、2年度は選択制になります。

アルバイトは規制を設け、運営は独立法人か第3セクターで、市が50%くらい携わることとします。補助金は、市から運営に一部補助します。

市にもたらす予想効果は、①製品販売からメンテナンス技術の販売へと、ソフト産業が上向きになり活性化する、②生産農家の若者の後継者育成につながる、③物流を含めた関連事業が活性化し、新規企業が生まれる、④まちに外国人が同居し、民間交流と消費経済が活性化する、⑤市民のグローバル意識が高まる、⑥将来的に市民公開講座のような門戸が開かれる、というところです。

課題としては、学校の許認可をどう取り付けるかということです。

これを作成するにあたり調べたことは、城西国際大学の入学金・授業料と留学生別科の入学金・授業料、千葉科学大学の入学金・授業料と留学生の入寮制度についてです。

[議長]

留学生の授業料などは、いくらぐらいでしたか。

[I 委員]

一般の大学ですと、初年度で大体130万円くらいですが、城西国際大学の留学生別科では60万円くらいです。ただ、2～3年前に中国からの留学生がたくさん来ていて、登録したまま学費を滞納して日本全国に散らばってしまったようです。そういう問題が発生しているのです、ある程度高い料金を前納で払ってもらうことは、育成という面で必要であると思います。千葉科学大学では、アフリカ、中国、アジアからの留学生が多いです。

いま中国では、植木がどんな使われ方をしているのかということを考えていくと、それで先が見えてくるのだらうと思います。そこでメンテナンスも含めて、新しい植木の供給方法などを考えていくことにスポットを当てて、育てていかなければ将来性はありません。

[K 委員]

中国は、数社の大きな会社が日本から専属で職人を呼び寄せて、そこで指導して技術者を育てていますよね。

[I 委員]

そういうやり方もありますよね。ただ、昨年、中国で大量の関係者が捕まったという事件がありましたので、そういう部分では問題があるようです。そのへの対策をしっかりとっておかないと、儲かるか否かの以前にしっぺ返しを食うことになります。

[C 委員]

中国の場合は（一部）正規ルートを通っていない密輸的なものも含まれます。

ただ一番の問題は、樹齢100年以上の植木を探し歩いて、格好をつけて売っているというだけで、その元はもうなくなってしまうということです。最近、家に植えてあるマキでさえも買いに来ています。

[I 委員]

ひょっとすると、20～30年たったらマキが匝瑳市からなくなる可能性もあるということですよね。

[C 委員]

九州ではマキがもうなくなっていますが、まだ匝瑳市には多くあるので大丈夫だと思います。

ただ、歴史のあるものを売っているというだけで、新たに作り出して売っているものではないので、産業としては難しいのではないのでしょうか。それに加えて国内では、日本庭園というのは維持管理費が非常にかかるということで、敬遠される傾向にあります。国内では売れないので、売れる海外へ持っていつているというのが現状です。

[議長]

I委員の提案は植木マイスターを育てるということですが、植木の技術については人によって違うものですか。

[C委員]

私もこの世界で育ってきており、有名な職人はいっぱいいますが、その有名な職人の弟子になってやっていかないと、自分がいくら上手だと言っても仕事は任せてもらえません。

[議長]

その有名な職人が、この植木大学の先生だったらいかがですか。

[C委員]

先生だったらいいのではないのでしょうか。

ただ、植木と簡単に言いますが、これは絵を描くことと似ていて、そういうセンスを持っていない人は難しいと思います。

[K委員]

私の家にも植木があり、職人さんに手入れを頼んでいます。その人は有名な植木職人の最後の弟子で、一番センスがあるということを見込まれて、うちの植木を任されている人です。その人も何人か職人を連れてきますが、後日植木を見てみると、師匠がやったものと下の職人がやったものは一目瞭然です。

[C委員]

私がいま一番直面して困っていることは、「早く安く」という簡単な仕事が多いので、それだけ才能を持っている人間に報酬を支払えないということもあり、そういう人たちが必要なくなっているということです。

[I委員]

それは他の職人についても言えることかもしれません。ところが、マイスターのように、第三者評価でその人の技術の評価を決めてあげることが、その人の年収に反映されるわけですね。そういうシステムが確立されれば、後継者もちゃんと育っていくのではないのでしょうか。

[C委員]

ただ、造園業界は人が多すぎるという問題点があります。一番簡単に仕事に入れるのは土木か植木で、簡単に採用されます。

[議長]

大学の研究者も実は徒弟制度です。基本的に日本は徒弟制度でやってきて、そこにマイスターのような制度を導入するのは、私個人的には面白いと思っているのですが、いかがでしょうか。

[B委員]

高校生が資格を取得するために専門学校へ行くケースがありますが、そのときに取得できる資格の種類が重要で、民間資格の場合はその先の就職がかなり厳しいです。やはり国家資格でないとダメなんですね。

[C委員]

植木屋の世界でも、樹木医だけはすごいと思いますが、実際に手入れをする技術については、一般の植木職人の方が上です。

[議長]

ものづくり大学がダメになっているという話がありますが、実務を大学に持ち込んでいるところはいっぱいあります。しかし、大学というところは専門学校とは違うのです。そこに実務を持ち込んで、しかもマイスターという資格の問題も絡んでくるとなると、やはり難しいのかなという印象はあります。

もう一つ問題となるのは、学校としての許認可をどう取り付けるかということですよね。

[I委員]

許認可については私も詳しくはわかりません。しかし、大学にせよ専門学校にせよいろいろ手法はあると思いますが、それについては方向性が決まればやり方はいろいろあるのだと思います。

[議長]

将来的な展望として学校も良いアイデアだと思いますが、学校を一つ設置するというのはけっこう大変なことです。やはり18歳人口が少なくなっているのです。学生を集めるのは大変ですよね。そういう理由で、城西国際大学や千葉科学大学は留学生が多いのですが、中国とかに職員を張り付けてまで募集していません。

昔、鎌倉アカデミーというのがあり、いろいろな有名人が来て、そこで弟子を

育てるといふようなことをやっていました。この前亡くなった前田武彦さんとか、各界で活躍している人がそこから旅立ちました。大学にはなれませんでした、そうした一種のサロンみたいなもの、あるいは幕末の塾のような、「匠瑛アカデミー」のようなものやってみるのも面白いと思います。ちなみに、匠瑛市には有名な植木職人はいるのですか。

[C委員]

県で認定している植木伝統樹芸士という制度はあります。その認定制度を根拠にお願いすれば、何かやってもらえるかもしれません。

[G委員]

いま私は農業振興会の会長をやっていて、植木組合の総会に呼ばれて出席していますが、組合の中でも活動の一環として植木塾という教室をやっていますよね。

[議長]

時間がだいぶ過ぎてしまっていますので、L委員の提案についてはM委員の意見も伺いたいので、次回ということをお願いします。

先ほどのI委員の提案や里山を絡めた資料館構想も、ひょっとしたら全部できるかもしれませんよね。学校はちょっと難しいかもしれませんが。

(2) 海岸地域の振興について

[議長]

海岸地域の振興についてですが、これはやはり振興ではないと思います。侵食問題はやはり深刻で、一度地元の人に現状を聞いてみた方が良いでしょう。

(3) 提案書（中間報告）の取りまとめについて

[議長]

いろいろな答申を見ていると、中間報告が非常に大きな意味を持ったところがあるので、慎重にいきたいと思います。とりあえず、次回までにどういったものを入れ込んでいったら良いかという概念図は作ってみますので、皆さんの意見を取り入れながら中間報告を出していきたいです。

今日の議論の中で一番記憶に残った言葉が、J委員から発言のあった「買い物難民」という言葉です。これは考えてみる余地があると思います。

長くなりましたが、以上で本日の会議は終了となります。

[事務局]

ありがとうございました。

4 閉 会